

わたしは、ダニエル・ブレイク (I, Daniel Blake)

観賞日 2020年11月23日

【概要】

制作 2016年 イギリス、フランス、ベルギー 上映時間 100分

監督 ケン・ローチ

音楽 ジョージ・フェントン

撮影 ロビー・ライアン

出演 デイヴ・ジョーンズ (ダニエル・ブレイク)

ヘイリー・スクワイアーズ (ケイティ・モーガン)

ブリアナ・シャン (デージー)、ディラン・フィリップ・マキアナン (ディラン)



【あらすじ】

イギリス中部の町、ニューカッスル。この町に住むダニエル・ブレイクは59歳の大工。彼は長年妻の看病に明け暮れていたが、その妻を失い現在は一人暮らしをしている。彼は仕事中に心臓発作を起こし、仕事に関しドクターストップをかけられる。そこで、やむなく福祉事務所に支援手当を申請するが、結果は受給不可。ある日、福祉事務所で係員と口論しているシングル・マザーのケイティを見かける。ダニエルはケイティと彼女の二人の子供を家まで送り一家と親しくなる。パソコンを使えないダニエルは申請をするだけで一苦勞、申請しても却下され埒があかない。怒ったダニエルは事務所の外壁に塗料で「私はダニエル・ブレイク・・・」と大書き、日頃のうっ憤を晴らし通行人の喝さいを浴びるがその場で逮捕される。不服申し立てをしたダニエルは久々の緊張感から心臓発作を起こし帰らぬ人に。葬儀の場でダニエルに代わりケイティが語ったことは・・・。

社会的弱者の観点から名作を作り続けたケン・ローチ渾身の集大成作品。

【解説】

■ポイント

●ケン・ローチ

- ・1936年、イギリス生まれの映画監督、脚本家。オックスフォード大卒。
- 1967年「夜空に星のあるように」で監督デビュー。
- ・「麦の穂を揺らす風」(2006年)で第59回カンヌ国際映画祭パルム・ドールを受賞。
- 2014年、第64回ベルリン国際映画祭金熊名誉賞を受賞。
- 2016年、本作で2度目のカンヌ国際映画祭パルム・ドールを受賞。
- 弱者の眼差しで50年以上映画を作り続けている。

●受賞(第69回カンヌ国際映画祭)

パルム・ドール受賞

■見どころ

●福祉国家イギリスの実態

「ゆりかごから墓場まで」と謳われたイギリスの福祉制度の実態。

「仏作って魂入れず」の見本。利用者は二の次のお役所仕事。

●ダニエル・ブレイクを殺したのは誰か？

